○脊黒鶺鴒（河原雀ともいふ）の巣ハ川邊の岩山の崩れ岩の間などにあり巣ハ諸鳥に先達て運び餌ハ運ぶに立木の中にもかくあふことなる事かれバ見へ安し巣子ハ餌よき物なれども獨餌になりてよりよ運法よ餌まで餌バ長留ぬやいまだここちことに呼子鳥といふ書にハ鶺鴒底ハきれ心ませざれハ足を鳴ふといふ

○翡翠（志なゝ カワセミ）の巣ハ山の赤土崩れ出る穴ハ二尺余り横に深く堀て其中にぜんまい蔵の綿ハ巣葉にして雛も生きなり外の鳥ハ雛の覓ハ加へて捨れども魚ハ喰ふる